

2004年仙台カップボランティア報告

S V 2 0 0 4

9月30日

昨年につき2度目の開催となるU-18(18歳)以下の年代による「仙台カップ国際ユースサッカー大会」、イタリア・ブラジル・日本・東北選抜の4つのチームが総当りで優勝を競う大会のボランティアを昨年に続いて担当した。7月にスポーツ振興事業団の担当の方から依頼があり、折りしも9月12日がS V 2 0 0 4の発足式という事から、組織的な参加としては初めてのイベントとなった。また、昨年が平日も含む2日間で開催、当時の組織であったV V Nからは6名の参加であったのに対し、今年は週末と祭日の3日間での開催ということで、最終的には28名がS V 2 0 0 4からのエントリーとなった。

日本代表VSイタリア代表



左 日本VS
ブラジル
右 ゲーム後



ボランティアについては、昨年がサッカー協会の応援者なども含めての運営であった事に対し、広く一般から約130名ほどのボランティアを集めたことによって、おもてなしの体制はかなり向上したと思われる。業務としては、「チケットもぎり・コンコース案内・各スタンド入場口・スタンド内誘導・バリケード担当・車いす案内・プログラム販売」と直接お客様と触れ合うものを中心、3日間ということ、そして日々2ゲームということ、拘束時間は8時間をこえる、この間をいかに充実させるか、今後へのポイントとなる。



観客数は平均5,961人と昨年の実績である5,625人を上回った。また、新聞によれば今年、国内で開催された「国際ユース大会」の中では、最も平均観客数が多いという、反面、他の大会は長いもので静岡の28回から福岡の3回まで、その全てが仙台よりも歴史を刻んでいる、この仙台の大会が、よりレベルが上がる為には、観客もボランティアも運営も全てが、

後発ゆえの最高のものをめざすべきではないだろうか。また、仙台だからあるもの、をいかに生み出せるか、が問われている。



右上 国旗入場
右下 選手紹介
上 国歌斉唱